

## 授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

初回の授業で各4名からなるグループを構成し、グループで課題に取り組む時間を毎回設けた。

授業目標自体に、アクティブ・ラーニング型の授業を体験し、将来指導できるようにすることを目指しています。独自のワークブックも開発しました。ほぼ全部の回(ガイダンスとテストを除く)で協同学習を取り入れています。また、最後に、今後の4年間でどのように学んでいくかの行動計画を書いてもらいました。また、e-learningを使つての相互評価や課題の提出、振り返りも行っています。

・一年生が専攻内の3履修モデルでの学びを理解していくため、各モデルから1名ずつ教員を担当者としている。  
・教員による講義的内容によって、大学でも学びに必要なスキルを教えるとともに、それを使って学生同士の横の交流ができるように発表・討論型の授業スタイルも採用している。

学生が、大学の授業、学習を、実践を通して実感的に理解できるように演習方式を多く取り入れている。

・レポートの書き方等のアカデミック・スキルを育成するため、説明をした後で実際に演習を行っている。  
・学生1人1人がテキストを読んで要約したり、文献を使って調べたりする機会、さらにそれらを発表して質問に回答する機会を設けている。

レポート作成や議論のレディネスがどの程度できているかを、授業中に確認しつつ、なアカデミックライティングの指導が一方方向でなく双方向によるやりとりができるように心がけた。後半は学生のレポート発表を実施したが、同じ講座のほぼ全教員が毎回別グループに参加することにより、学生だけでなく教員の人となり伝えることとなり相互の理解を深めた。

できるだけ平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。また、簡潔にまとめた資料を配布した。  
一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行い、理解を深めるため計算問題を課した。

できるだけ具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、関連する生理学的な仕組みについても適宜説明した。  
また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。  
一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

可能な限り、1、2回で完結する内容を取り上げ、休んでも出席した授業では理解できるように工夫した。  
また、その都度、資料を用意した。  
再帰の概念を理解してもらうために、自作のプログラム教材を開発して授業で利用した。

講義内容が理解できているかどうかを確かめるために、適宜小レポートを実施している。また、自発的な学習を促すためにプレゼンテーションや討論などを取り入れている。